

# 京都代協 栗山氏招いてセミナー 新春懇親会に127名参加、前原誠司議員も

要だ」と締めくくった。午後6時からの新春懇親会では、最初に田中会長が、「保険業法の改正により我々代理店は意向把握義務、情報提供義務について前向きに検証し、体制整備に取り組みなければならない。大変な状況が続くが、ここに来てようやく、その先には、明るい兆しがあるのではないかと思っている。皆様とともに頑張りたい」と挨拶した。

京都代協(田中康三会長)は1月22日午後3時から、京都市下京区のキヤンパスプラザ京都でセミナー、ホテルグランヴィア京都で新春懇親会を開催した。セミナーには会員ら102名、懇親会には来賓を含め127名が参加し、盛大な催しとなった。

セミナーでは、まず田中会長が挨拶に立ち、昨年8月の福知山中豪雨で被災した同代協4会員を支援するための寄付活動への協力を、感謝の意を表した。続いて、被災会員を代表し、(株)京都ライフパートナー代表取締役の伊木努氏が当時の状況などについて報告を行った。とくに、「水害に



挨拶する田中会長(懇親会で)

引き続き、「新しい保険募集ルールに向かっていく代理店としての経営戦略と体制整備」のテーマで、日本代協アドバイザーで丸紅セーフネット(株)常勤監査役の栗山泰史氏が講演。今回の保険業法の改正は、保険募集のあり方を根本から変えるものであり、中でもお客様に極めて大きなニーズになり始めている比較ニーズにこたえるには、重い体制整備を覚悟しなければならぬとした。また、大きな変化の中で保険会社も必ず変わるの、それを活用する視界が必要と強調し、最後に「皆さんが経営戦略をきっちり立てることが出発点だ。それを決めた上で体制整備を行うこと。これからの1年を意味ある時間として使い、新しい時代を迎えようという覚悟が必



前原誠司議員

書、北神圭朗氏秘書等の来賓紹介があり、馬場氏、新井氏、田中氏が来賓挨拶を行った。馬場氏は、頻発する自然災害、また業法改正に触れ「社会的なニーズ、課題に的確に対応し、業界をより発展させるために皆様の力は必要不可欠だ。全力でサポートするので、ますますご尽力を賜りたい」と述べた。新井氏は、昨年10月から近畿で取り組んでいる地震保険普及キャンペーンへの協力を強く呼び掛けた。辻本完治日本代協副会長の乾杯の挨拶で歓談に移った。また、前原誠司衆議院議員が駆けつけ、「皆様は安心のためのセーフティネットを提供いただいている。より安全のための取組みについてプロの声を聞かせていただき、それを反映できるように、頑張りたい」と述べた。